

## シリーズ「発達に違いのある子どもたち」

市では、「障がいのある人、ない人にかかわらず だれもがいきいきと安心して暮らせるまちづくり」を基本理念としてさまざまな施策に取り組んでいます。

今回も、市内で子どもの発達支援に取り組まれているNPO法人「まいすてつぶ」から、発達に違いのある子どもたちについて皆さんに正しく理解いただくために、文章を寄稿していただきました。

問合せ先 福祉課福祉政策係 ☎221111 (内線2814)

### 「場面緘黙(かんもく)の子どもたち」

最近ドラマや映画に「場面緘黙を連想させる人物」が登場し、関係する人たちの中で話題になっていきます。連続テレビ小説「まれ」の幼なじみ「二木高志」、アニメ映画「心が叫びたがってるんだ。」の主人公「成瀬順」、大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公「杉文」の子ども時代……。いずれも作られた人物像なので、場面緘黙の診断基準を満たすかどうかは定かではありません。しかし、どの作品も話すことの難しいその人の、ありのままを受け入れようとするさりげない優しさがあふれています。

子どものコミュニケーション障がいの一つである場面緘黙(医学的な診断では選択性緘黙)とは、社交不安や恐怖症の一種で、子どもが安心してリラックスできる家では普通に話せるが、園や学校など特定の状況では話すことができず、それが長期間続く症状

です。生まれつき危険に対して敏感な気質を持つ子どもが多いと言われており、決して親の育て方のせいではありません。発生率は0・2〜0・7%、入園や入学のような社会的な環境にデビューする時期に多いようです。転校や失敗体験がきっかけとなる子どももいます。子ども一人ひとりの状態はさまざまで、不安が強くて動けない子もいれば、話せないけど元気で活発な子もいます。

### みんなといっしょに

#### 笑いたい!

まいすてつぶにも場面緘黙の症状を持つ子どもたちが通って来っていますが、一人ひとりの状態は異なります。学校では全く話せない子、少数の友だちとなら話せる子、話さないけど活発な子、幼稚園の頃から話せない子、小学校の低学年から話せない子、中学校まで話せなかったが高校から話せるようになった子など、子どもたちそれぞれの

特性も年齢も違いますので、まいすてつぶでは個々に必要な学習と、安心して過ごせるような活動を行っています。楽しくて思わず声を出して笑ったり、話したりする子もいますが、声を出したことに周囲が過剰に反応してしまうと逆効果なので、スタッフは自然な雰囲気を保ちながら静かに見守るよう意識しています。

場面緘黙の子どもたちの多くは、話せないだけでなく、喜びや怒りや悲しみを表情に出すことが苦手です。気持ちが理解できないのではなく、伝えたい、みんなといっしょに笑いたい気持ちはありながらも、不安が強すぎてそれを表に出すことができないのです。感じていないのではない、無視しているのでもない、本当は言いたいんだ! そのことを周囲の人に知ってもらうだけで、体いっぱい不安な気持ちは少し軽減されるでしょう。

改善の手段は、安心できる場所で安心できる人と、少し

ずつコミュニケーションに慣れていくことです。子どもが場面緘黙を克服するには、周囲の大人の忍耐強い、しかしさりげない見守りが必要です。焦らずゆっくりと、子どもが安心してコミュニケーションできる環境を準備することは、場面緘黙の子どもに限らず、すべての子どもに必要なことだと思えます。

#### 〈参考資料〉

かんもくネット (<http://kanmoku.org/>)、学校で話せない子ども達のために (<http://silencenet.sakurane.jp/>)

#### 〈参考文献〉

「場面緘黙の子どもの支援」クリストファー・A・カーニー著(学苑社)、「私のかんもくガール」らせんゆむ著(合同出版)、「どうして声が出ないの?」はやしみこ著・かんもくネット編(学苑社)、「なっちゃんの声」学校で話せない子どもたちの理解のために1」はやしみこ著(学苑社)、「放課後カルテ8巻9巻」日生マユ著(講談社)